

日本労働者協同組合連合会 第16回定期全国総会



1995年5月21、22日
池袋・サンシャイン文化会館にて

総 会 ア ピ ー ル

仲間みなさん！友人みなさん！

「失業者の仕事を何とかして確保しよう」という必死の思いから、「事業団全国協議会」として発足した、日本の労働者協同組合運動の全国組織は、15周年を迎えて、新しい労働と企業のあり方を一歩一歩つくりあげながら、日本の経済社会の民主主義的改革への一つの方向を示すまでに成長してきました。第16回総会は、スペイン、中国の代表や、国内の協同組合、労働組合の代表のあたたかい祝福の中で、運動を振り返るとともに、21世紀に向けた「第2次中期計画」を確認しました。

仲間みなさん！

戦後最大の被害をもたらした阪神大震災の中で、地域の労働者協同組合の仲間は、自らも傷つきながら、全国の仲間の連帯を得て、人の救助や水・食糧の供給から始まって、高齢者の安否確認と介護などに大きな役割を發揮しました。4月22日には、住民の要求や自治的なまちづくり運動と結んで、大きな志をもって「建設労働者協同組合」を発足させました。

大量失業と雇用不安が、あらゆる階層と地域の人々をとらえる中で、日本労協連は、全国縦断シンポジウム「雇用不安と労働の未来」を6回にわたって開催し、名古屋で開かれた全国協同集会の成功とともに、「地域づくり・仕事おこし」に奮闘する人々との交流を大きく進めて、この危機を働くものが主導して打開する方向を明らかにしました。

こうした中で、パラマウント製靴、無茶々園、黄柳野協同組合、シーアンドシーが新たに日本労協連に加盟し、労働者協同組合は、生産事業を本格化するとともに、農業、教育、文化を含めたあらゆる領域に事業と運動を広げ始めました。日本労協連は、21世紀にむけて、「生命・労働・地域の再生」

のための「非営利・協同の大連合」の中核としての役割を、自らに課しています。

労働者協同組合運動はまた、高齢者が主人公となって、協同し、自分たちの人生を自分たちで切りひらく「高齢者協同組合」という、新しい協同の姿をつくりあげるとともに、ヘルパーや老人給食など、福祉において最も不足している「担い手」集団を自らつくりあげて、熱い共感を集めています。

仲間みなさん！

「景気回復」の掛け声とは裏腹に、「円高」が日本の経済に重くのしかかり、生産拠点の海外移転と地域経済の「空洞化」が進み、事務部門での「合理化」が大々的に進められて、失業はホワイトカラーや新卒の若者たちにも及んでいます。もうけのためには、人も地域も切り捨てていく企業のあり方や、大量失業と環境・資源の危機をかえりみずに全世界に大量生産・大量消費・大量廃棄を押しつけてやまない産業や経済のあり方が、いま、根底から問いなおされています。

「オウム真理教」の事件は、科学や技術を使う人間の倫理や価値が崩壊するとともに、若者たちの生きがいの指針や連帯を実感できる場が失われている状況をまざまざと示しました。

働く者が、真に人と地域に役立つ仕事をおこし、人と人との新しい結びつきを回復していくことが、物質的・経済的環境と人間の内面の両面から、人類の危機を克服していく、一つの大きな手がかりとなることは、まちがいありません。

仲間のみなさん！

大量失業と人類の危機に抗し、「生命・労働・地域の再生」をめざして、あらゆる領域に労働者協同組合を確立し発展させよう！

建設労働者協同組合を全国の仲間の連帯で成功させ、「安心・安全なまちづくり」を担う力を着実に高めていこう！

働く者が真に主人公となって、労働者協同組合の内実をつくりあげ、社会の共感と合意を得て、法と制度に高めて、いっそうの発展につなげよう！

高齢者協同組合を全国に設立し拡大して、「高齢者社会」を人間らしい社会づくりへの転換点としよう！

世界の仲間とともに、ICA大会を成功させ、労働者協同組合の国際連帯を前進させよう！

「生命・労働・地域の再生」のために活動するすべての人々と手を結んで、「非営利・協同の大連合」を創り出していこう！

1995年5月22日

日本労働者協同組合連合会
第16回定期全国総会